

開成の杜

第114号 ●2020年12月18日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <https://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



62年館



創学館



郡山女子大学附属幼稚園



(撮影 山口郁生)

郡山女子大学附属高等学校 管理棟



理事長・学園長
関口 修

新たな歳に向かつて

住めば都とは良く言ったもので、この地に居れば友人知人や隣人が助けてくれる安堵感は何物にも替え難いです。然りながら、この地には善人ばかりではなく、邪推人もいて識別すれば多種多様でグラデーションのようになっているようです。複雑怪奇な社会状況の今日だからこそ読書の意義が倍増します。

沢山の物語には「正直者」を賛美し正義を重んじている書が喜ばれていますが、これは如何に人間が宗教の教義に影響を受け、幼少期からの育ちのなかで学び、成長しているかということなのでしょう。

毎年のことなのですが、一年間の締め括りの時期には宗教の違いがありながらも同じような思考による行為があることが不思議でありません。このような思いを日本国内に移して考えれば、同じ福島県内でも地域によって違いがあるように、すし、地産地消という生活に根差した文化も関係があるようです。

新型コロナウイルスで行動自粛だからこそ自分が暮らしている環境をも冷静に観察するのも歳末なのでしょう。しかし、近年の日本はデジタル化が振興したことにより異文化の情報が容易に入手で

き、同時に各種メディアも迅速化した影響で宗教性や地域性が混乱をまねき、それらが顕著になりつつあるのではないのでしょうか。

このような変化を考えてみますと、多様化社会とか異文化志向などと表現されますが、世代別又は個別的には顕著な違いがあり、デジタル人間とモノラル人間とも大別されるようです。

デジタルな人たちが日常生活する専門用語を聞いているとリテラシー(識字)の理解が困難な高齢者が沢山いることが解ります。

リテラシーが解らないと便利な道具が思うように活用できないという障害が発生してしまい、世代間の交流にも問題が起きています。因みに、若い人たちが「エモい」という言葉を頻繁に使うので調べた結果は、リテラシー同様に難問でした。このエモいとはemotion(情緒)を意味し、スマートフォンメール機能を単純に素早く活用するための略語でした。おそらく高齢者には理解困難な問題でしょう。

時の過ぎゆく俤に過ぎてきた今年を振り返ると、例えようもない程に個人の自由な行為行動が阻害された一年間だと思えます。

学生・生徒の生活はデジタル化の波に飲み込まれ、対話の喜びを感受することが出来なかったと思います。

「艱難汝を玉とする」との先人の教えがあることを心の友として、明日への希望と致しましょう。

「クリエイティブヘルス」 醸芳小学校を訪れて

郡山女子大学 食物栄養学科 准教授 岡部 聡子

「クリエイティブヘルス」、福島県立医大の後藤あや教授が率いる子どもたちの健康を新しい視点でサポートするプロジェクト名である。福島県立医科大学、鹿児島大学、ランカスター大学（イギリス）、そして郡山女子大



質問をしている醸芳小学校の生徒
左は本学の善方美千子助教

学の4大学が協力して、災害多発国である日本をはじめインドネシアとカンボジアの小学校を巡って教育を実施しようと企画している。この教育の中身が独特で、大学の担当はFODD貧血予防の栄養教育がメインであるが福島県立医科大学と鹿児島大学はBODY血液の働きを担当し、ランカスター大学はACT地域と健康のつながりを体で表現する演劇を用いて3つの分野が融合し、生徒の健康に対する考え方を多方面から育成しようとする。資金源は国際交流科研費（国が大学等の研究者に対して提供する補助金）から賄う。

第1回目は福島県の醸芳（じようほう）小学校を訪れ、5年生を対象にF

就職部より

今年度の就職はオンライン化が急速に進んだことにより、オンライン面接が大幅に増え、コロナ禍の就職は予期せぬ事態に見舞われている。就職内定状況は各科の特色にもよるが、昨年度よりも20%前後下がっている。その中で、全体的に就職活動費用は大幅に減少している傾向も見られている。

11月4日に第3回就職ガイダンス（対象大学3年、短大1年）でオンラ



キャリアサポーターとの座談会

イン面接（Zoom）とキャリアサポーターと学生の座談会を実施した。次年度からもオンライン面接は行われ、アンケート結果からも、コロナ収束後も6割がオンライン面接を実施する事に不安を感じている学生が多く見られた。また、キャリアサポーターとの座談会は（株）エフコム、（株）福島銀行、（株）ヨークベニマルの3社と学生2名で行ない、企業の方々の声を聞くことで視野が広がり、漠然としていた目的が明確になり、就職を『自分事』として捉え意識が変わってきた。

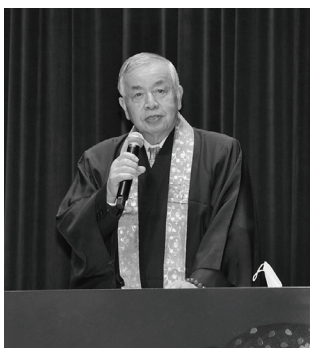
次年度の採用予定は今年度並み、もしくは減少傾向が予測されているが、すでに企業が行うインターンシップ、企業説明会が実施されている。第5回就職ガイダンスでは、就職内定した先輩の話を聞き、ミスマッチがないように就職活動に役立ててほしい。

コロナの収束は未だに見えない。変化にはリスクもあり、新型コロナウイルス感染拡大で広まったデジタル化やテレワークは課題を解決する側面があり、物事にはいいところと悪いところの二面性がある。テレワークは労働時間や勤務態度で評価することは難しいが、新たな雇用形態の導入に追い風が吹き始めている。日本企業はメンバー型雇用が圧倒的だが、職務内容を細かく規定したジョブ型雇用を導入する企業も増えている。会社や外的要因に任せていると生き残れないジョブ型は自ら勉強して自分の価値を高める事が重要になる。

第2回教養講座 道因寺の石田氏から 命のつながりを聴く

第2回教養講座は11月25日、建学記念講堂で開かれ、真宗大谷派道因寺前住職の石田宏寿氏が「宗教とは（仏教）」と題して講演した。

石田氏は、新型コロナウイルス禍のような疫病の歴史に触れ、永遠ではない無数の命が繰り返しながらあることで今の命があるという仏教の真理を強調。目標に向け、学問を深めたり、仲間と助け合ったりして、命を使う大切さなどを説いた。



仏教について語る石田氏

卒業研究発表会始まる

郡山女子大学家政学部 食物栄養学科の第52回卒業研究発表会が10月9日～11日まで、第31回人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコースの中間発表会が10月10日、福祉コースの卒業研究発表会が10月11日に行われた。さらに大学院人間生活学研究科・修士論文中間発表会が11月18日にそれぞれ行われた。

卒業研究発表会

【大学 食物栄養学科】

▽骨密度を上昇させる試み

大竹葉月／大塚楠月／小野 恵

▽即席みそ汁の現状調査及びNa／Kとその改善について

須田明日香／宗像ひずる

▽低温蒸気加熱加工法を活用したカクテキ風味野菜の開発 矢内綾／渡邊夏海

▽古殿町のミニトマトを活用した6次化商品開発 古閑優花

▽郡山市の子供たちの食生活に関する実態調査（7） 笹沼愛莉

▽食事で出来る風邪予防レシピの開発 住吉美咲／横田真那

▽鉄摂取量向上のための教育ツール作成・鉄カルレット 阿曾瑞希／阿部志織／佐藤朱莉／鈴木愛理

▽インドネシアにおける児童が楽しみながら実践できる調理実習用のメニュー開発について 上石友理奈／影山知香

▽小学生を対象とした食育体験型プログラミングワークショップの試み 遠藤朱莉／金田一沙

▽鉄代謝ならびに吸収に影響する食品成分について 関葵／丹内美保／増子夏海／松原あゆみ／生田佳奈

▽そばの細菌汚染と氷感庫を用いた保存条件の検討 大和田理恵／菊池萌花／星 美聡

▽郡山市内の第1次・第2次・第3次産業に従事する人たちのインタビュー調査について 熊谷亜美／高田華／矢真奈奈

▽腎臓病の食事療法を実践するためのたんばく質調整食品の活用について 青木はるか／大竹春奈／岩崎彩加

▽糖尿病の原因となる肥満予防の食習慣の男女の意識調査 伊藤唯奈／薄井 歩／遠藤沙綾

▽葛尾村での取り組み報告／女子大農場でのエゴマ栽培並びにレシピ作成について 斎藤優理／吉村遙佳

▽新型コロナウイルス感染症の影響による食生活の変化について 菊地美陽

▽栄養学を学ぶ女子大生の食習慣と生活習慣の実態調査／BMIと食習慣・生活習慣との関連 高野尾嶺／長谷川真理／長沢彩花

▽高校生アスリートの好き嫌いの有無と食行動の関連 柳沼花培／渡辺美穂／高橋春香／濱尾かれん

▽チャレンジふくしま県民運動／社員食堂でのベジ・ファーストの取り組み 本田晴菜／宗像千聖／菊地加奈美／菅原怜那／鈴木美帆

▽人間生活学科 福祉コース 介護施設における幸せな死の迎え方について―看取り士のケア方法からの導入の検討― 阿部桃佳

▽震災時の対応から学ぶ―介護施設長のインタビューから― 遠藤麻衣

▽イタリアに寝たきり高齢者はいるのか―日本の高齢者が寝たきりにならないための提案― 沖田侑理江

▽自閉症のコミュニティ支援とセルフアドボカシー―セサミストリート・ジュリアを巡る論争から― 石田千鶴

▽少子化と女性の働き方 二瓶莉子

▽住み慣れた地域で自分らしい暮らし

中間発表会

【人間生活学科 生活総合コース】

▽地域の生活に根差した郷土食―三春三角揚げについて― 伊勢由佳里

▽日本人の洋装化による服装観の変遷 齋藤真美

▽足と靴の関係―より快適な生活を送るための提案― 臼井智香

▽インスタグラムにおけるハッシュタグの特徴とファッションの流行 伊藤まりな

▽映画から見るLGBT 差別と逆境の中を生きた人々 在原琴理

▽映画におけるジェンダーイシューとその時代背景―差別と偏見を乗り越えた男たち― 遠藤早紀

【人間生活学科 建築デザインコース】

▽占領期静岡における接収ホテルと休暇将兵の実態 太田奈々夏

▽婦人雑誌・児童博覧会にみる子供部屋の普及とイメージ戦略 菅野遙菜

▽住宅の照明における課題と今後の展開―照明がもたらす心理的影響について― 中里 優

▽福島県の災害の変遷と特性についての考察―水害を中心として― 七海麻姫

▽「町並みの美学」における都市計画的視点に関する考察―芦原義信研究― 根本住乃

▽1級建築士製図試験からみる公共建築物の社会的背景に関する研究 吉成萌笑

【大学院 人間生活学研究科】

▽青森県の伝統的汁物に関する食文化及び調理科学的研究―主に津軽地方のじゃば汁、南部地方のせんべい汁を中心として― 佐々木瞳

春高バレー 5年連続 22回目出場

第73回全日本バレーボール

高校選手権大会(春高バレー)県代表決定戦を兼ねた第48回FIV杯争奪県高校バレーボール選抜優勝大会は11月21日、福島市の福島トヨタクラウンアリーナで開かれ、附属高校バレーボール部は磐城第一高校に3・0で勝ち、5年連続22回目の優勝を飾った。

附属高校は1月5日から東京都の東京体育館で開幕する全国大会に出場する。今回、1回戦は不戦勝となり、1月6日の2回戦で東京都大塩尻(長野)・八王子実践(東京)の勝者と対戦する。

▽準々決勝

郡山女子大附属 2・0

福島成蹊

▽準決勝

郡山女子大附属 2・0

聖光学院

▽決勝

郡山女子大附属 3・0

磐城第一

メンバー表

監督 佐藤 浩明
コーチ 佐々木 淑子

マネージャー 尾坪 大輔

名前	学年
青島 美空	3年
佐藤 しいな	3年
原 花穂	3年
木田 遥香	3年
柏原 凧沙	3年
柳沼 葉奈	3年
石井 さくら	3年
佐藤 朝美	3年
郡司 咲梨	3年
本田 恋桜	3年
今野 世実	3年
本田 凜	2年
佐藤 のあ	2年
小林 ここあ	2年
三瓶 心	2年
菅野 好美	2年
平澤 琉楓	2年
安藤 楓恩	1年
佐藤 凜々	1年
菅野 明日華	1年

名前	学年
佐藤 小梅	1年
亀石 緑	1年
鈴木 亜里彩	1年
湯座 美紅	1年
西田 美妃	1年



勝利のガッツポーズ！



5年連続22回目春高バレー出場を決めたバレーボール部

【弓道部】

○すごいぞ！全国選抜大会出場

11月1日、南相馬市弓道場で開かれた「全国弓道選抜大会県予選」で準優勝し、12月25・26日の岐阜県岐阜市の岐阜メモリアルホールで行われる「全国弓道選抜大会」の出場権を得た。さらに11月22日に若手県盛岡市で開かれた「東北弓道選抜大会」でも準決勝で優勝校に惜敗したが第3位に入った。

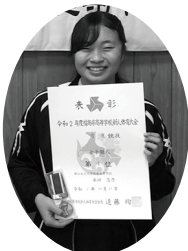
○県高校新人体育大会弓道競技

11月17・18日 いわき市にて

▽団体 第3位

▽個人 第4位 本田志乃(高2年)

弓道競技において射技・射心ともに優秀な射を体現したチームに贈られる「射道優秀賞」を受賞した。



4位入賞の
本田志乃さん

▽出場メンバー

谷田川七海 (高2年)

伊藤 唯 (高2年)

小林 茉央 (高2年)

小林 玲菜 (高2年)

本田 志乃 (高2年)

畠山 心 (高2年)

寺山 舞 (高2年)



実力を発揮した弓道部員

【卓球部】

○県卓球選手権

ジュニアシングルの部

全日本卓球選手権県予選を兼ね

た本大会で、白土咲良が全国大会へ。

▽5位 白土 咲良(高2年)

*全国大会出場、全国新人合宿参加資格獲得

▽6位 伊藤今日香(高1年)

▽ベスト16 望月美玖里(高1年)

○福島県高等学校新人体育大会

卓球競技県中地区大会

10月7日・8日、郡山市西部体育館で開催。

▽学校対抗 1位 附属高校

▽女子シングルス

1位 白土 咲良(高2年)

2位 榊田 有那(高1年)

3位 榎村 朱里(高2年)

5位 望月美玖里(高1年)

美夢奈(高1年)／本間千尋(高1年)

*県大会通過 二瓶有加(高2年)

／緑川奈々美(高2年)

○福島県高校新人体育大会

卓球競技

▽学校対抗 2位 附属高校

*東北高等学校選抜卓球大会出場

▽女子シングルス

ベスト8 白土 咲良(高2年)

望月美玖里(高2年)

伊藤今日香(高1年)

榊田 有那(高1年)

ベスト16

伊藤今日香(高1年)

榊田 有那(高1年)

○2年ぶり6度目の優勝

県高校新人体育大会剣道競技

▽団体 1位

剣道部は来年2月に青森県で行われ



団体優勝を勝ち取った剣道部員

る東北選抜大会優勝大会に出場する。

酒井主将は「自分たちの勝ちに對する執念を剣道で表現できた大会でした。全員でつかみ取った優勝を自信に変え、さらに上を目指して頑張ります」と述べた。

▽リボン

5位 大橋 萌(2年)

6位 萩原 萌(2年)

1位 渡邊美理彩(2年)

4位 長谷川愛乃(2年)

5位 大橋 萌(2年)

6位 橋本 つづみ(1年)

メンバー表

	名前	学年
大将	酒井 月渚	2年
副将	三留 綾華	2年
中堅	井上 由海	1年
次鋒	石原菜々恵	2年
先鋒	三瓶詞乃美	1年
補員	新田百合子	2年
補員	黒岩堂那奈	2年
主務	菊地 彩月	1年

【ハンドボール部】

○第58回福島県高等学校

新人ハンドボール選手権大会

▽県南地区決勝

附属高校35・11安積

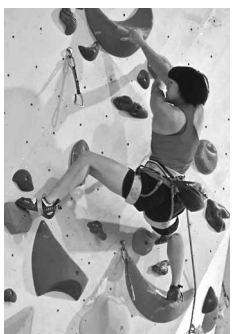
【スポーツクライミング】

○スポーツクライミング・リード競技会優勝

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった第73回県総合体育大会代替大会。ロープで安全を確保しながら到達高度を競うリード部門のみで開催された。

▽少年女子優勝 滝口萌(高2生)

高さ11メートルの壁を完登し優勝した滝口選手



高さ11メートルの壁を完登し
優勝した滝口選手

【新体操部】

○県高校新人体育大会新体操競技

10月29日～30日 福島市あづま総合体育館

▽団体 1位

▽個人総合2位 渡邊美理彩(2年)

3位 長谷川愛乃(2年)

5位 大橋 萌(2年)

6位 橋本 つづみ(1年)

2位 渡邊美理彩(2年)

3位 長谷川愛乃(2年)

▽フープ

3位 長谷川愛乃(2年)



全員で心を一つに！ マーチングバンド部

【マーチングバンド部】

第49回マーチングバンド・パトント

ワリント東北大会は11月8日、仙台市

で動画審査が行われ、附属高校マーチ

ングバンド部が金賞を受賞、全国大会

出場を決めた。全国大会は来年1月

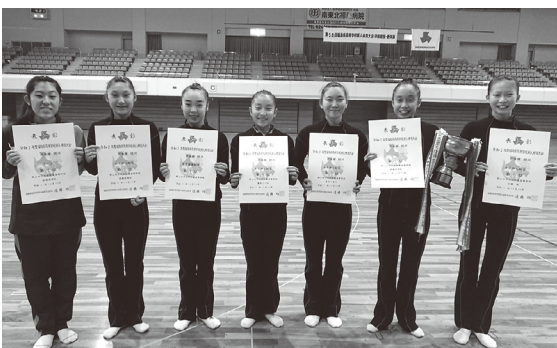
23日、24日に動画審査で行われる。

柳沼胡春部長は「全国大会では

「楽しむ」をテーマに、全員で心を一つ

にし、感謝の気持ちが届くような演

奏演技をしたい」と抱負を語った。



団体優勝に輝いた新体操部

放送部

放送部に所属する3年生は一人です。それでも後輩達と頑張ろうと思いましたが、新型コロナウイルスの影響で思うような活動もできず大会も中止になってしまいました。しかし校内放送の充実を図ったり、郡山警察署様からの依頼で「なりすまし詐欺被害防止」を呼びかける広報アナウンスに協力させていただいたり、新しい活躍の場が増え嬉しいこともありました。私が引退するのはもう少し先なので、それまでにできることに全力で取り組みたいです。食物科3年 秋葉 舞白



書道部

書道部は、今年度行われる予定であったコンクール、また、昨年度もそうでしたが「もみじ会」で行う予定でありました書道パフォーマンスを新型コロナウイルスの影響で行えませんでした。個人での練習は行いましたが、部全体で活動する時間が短く、一緒に作品を作る時間がありませんでしたので、今後、活動する時間ができましら、時間を大切に全体の活動をしたいと思います。部長 3年 遠藤 朱香



華道部

私たちは、華道部の活動を通して、日本の伝統文化の素晴らしさや、作品で自分自身を表現する楽しさ、やり遂げる大切さを学びました。今年度はお稽古の回数が減り、もみじ会でも作品が展示できなくなつてしまひ残念に思います。しかし、限られたお稽古時間に集中することで、技術と表現力の向上を図ることができました。少しはやくコロナウイルスが終息し、次年度は後輩たちが、またもみじ会で作品が展示できるようになることを願っています。3年 有賀 美月



演劇部

演劇部の練習は、飛沫が飛びやすく非常に感染リスクが高いため、今年度は感染防止も踏まえて、過去の演劇発表会やコンクールのDVDをみんなで見返して、脚本や演技や舞台美術の研究をしています。今はまだ、昨年のような活動をするのは叶いませんが、今できることを行い、来年の春季発表会に備えたいと考えています。部長 2年 横田 明日香



美術部

作品を制作していく中で思い通りにいかない時もあると思います。私が3年間美術を学んできて思うのは、どんなに辛くても絵を描くことの楽しさと意味だけは忘れないでほしいということです。美術は関心のない人からすればどうでもいいことかもしれませんが、だからこそ美術を本気でやる部員の皆には自分を誇りに思っていてほしいです。美術科3年 加澤くるみ



文化部



茶道部

私たち茶道部は、1年生20名、2年生19名、3年生8名の47名で活動しています。今年度は三密を避け少人数でお稽古しています。3年生にとっては、残り少ない活動となりましたが、集大成としてこれまで以上に集中して学び、後輩の模範となるように行動したいと思っています。感染防止のため、今年度は抹茶とお菓子をいただくことができませんが、単に抹茶をいただくだけでなく、茶道を通して様々な文化、茶の湯の精神を学び、後輩たちに引き継いでいきたいと思います。部長 食物科3年 上田 朱音



合唱部

私達合唱部は「奏思奏愛」仲間を思う・共に助け合う・合唱愛に溢れる」を目標に練習に取り組んでいます。3年生は部活動の最後を迎えるに当たり、後輩達に今まで伝わってきた部の伝統を引き継ぎ、悔いが残らないよう最後までやりきる事を強く思いながら、残り少ない活動を全力で楽しみ、走り抜けることができました。部長 3年 小林 舞



科学部

私たち科学部は毎年、高校総文祭自然科学部門での研究発表会参加に向けた研究や、科学館でのボランティアを行っています。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で、ボランティアなどを行なうことができませんでした。また、毎日の活動も、密になるのを避けるため、例年通りにはいきませんでした。来年度は、新しい生活様式のもと、工夫しながら活動してきたいと思います。部長 食物科3年 今関 ひな



英語部

英語部で様々な活動をしました。カリフォルニア州の先生方が来校時には交流し、カナダの留学生にはカナダの手遊びを教えてもらいました。また、ルワンダ支援のボランティアや幼稚園生とのハロウィンを通して英語の楽しさを体感しました。英語部を通して外国人からみた日本についてやコミュニケーションの大切さを学びました。部長 3年 増子 三寿々



マーチングバンド部

今年度は、コロナウイルスの影響により、県大会は中止、東北大会以上はビデオ審査となりました。また、外部での演奏は未だ2回しかありません。しかし、私たちはこれをチャンスと捉え、より深く楽曲に取り組むことができると、前向きに考えています。「コロナだからできない」ではなく、「コロナだからこそできる」ということを念頭におき、全国大会に臨みました。部長 3年 柳沼 胡春



第74回 もみじ会

第74回もみじ会は10月10日(土)、11日(日)に開催された。昨年は台風の襲来により中止となり、今年は新型コロナウイルス感染症防止のため一般公開を行わず、学内での研究や履修成果の発表の場として実施した。

各学科とも日頃の学びと卒業研究の中間発表に加え、コロナ禍の現状から得たテーマや福島県の課題を見据えて地域貢献につながる提案・実践などを紹介した。三密を避けたオンライン形式の発表も行われた。また、附属幼稚園の作品展には保護者も訪れ、子どもたちの力作に目を細めていた。

もみじ会の内容は、本学ホームページのYouTubeチャンネルで公開している。



人間生活学科



地域創成学科



食物栄養学科



附属高校 ペットボトルキャップのビッグアート



附属幼稚園



幼児教育学科



大学院



健康栄養学科



専攻科

第209回芸術鑑賞講座 「斎正機展」

第209回芸術鑑賞講座「斎正機展」ふるさと・ふくしまとともに」は、10月6日(火)～11日(日)に開かれた。

福島市出身の日本画家・斎正機氏の高校・大学時代から現在に至る作品25点、作品が採用されたカレンダーや新聞連載などのパネルを展示した。日本画の画材を使いながら、柔らかな色彩や輪郭で独特の世界を醸し出している。



斎正機氏の解説で作品を鑑賞する生徒ら

の風景、鉄道、子どもの日常を描いた作品への思いを語った。



開場式でテープカットをする関係者

附属高校生 感謝と未来への メッセージ

今年、新型コロナウイルス感染拡大により多くのスポーツや音楽、文化の各種大会が中止となった。一度は夢や目標を失ったものの、気持ちを切り替え、未来へ向かって歩もうとする附属高校生たちの思いやメッセージを集めた。

◆佐々木さら(2年3組)

この状況を受け入れ、陸上部は前を向いて走っています。あたり前の毎日こそ大切に。沢山の方々に感謝。今できることを全力で!!

◆遠藤芽衣(3年 食物科)

合唱の最後の大会にかけていた想いは大きかった。しかし、希望のある後輩たちに私たちの全てを託し、来年頑張ってもらいたい。

◆松崎仁泉(3年1組)

書道の七夕展が中止となり、賞をあらかじめかけましたが、自分で納得のいく私らしい作品を仕上げるため

心を白い紙に表現します。

◆宮村優香(2年1組)

自粛期間中やりたいことを我慢してくれてありがとう。小さなことかもしれないけれど、それが私達の笑顔を明るく未来を救っています。

◆柳沼妃花里(3年2組)

コロナウイルスの影響でインターハイが中止になり、残念に思っている中、代替大会を企画してくださった皆様ありがとうございます!

◆岩谷香澄(3年2組)

目の前が暗くなり、ボールを触ることさえ嫌になったが、後輩に残せることや大学での活躍で、先生や親へ恩返しするため頑張っている。

◆本田彩風(3年1組)

先生方や家族に感謝。学校で練習できること、大会に参加して試合ができることは支えてくださっている方々のおかげです。

◆佐藤凛々(1年2組)

目標を見失っても、また始めれば良い。自分が目指すものになるために努力は惜しまない。新たな目標に向かって頑張ります!

◆萩原 萌(2年3組)

仲間や先生がいて体育館で練習で

◆新田百合子(2年2組)

今までの努力は、どこかで必ず役に立つし、新しい目標に向けての活力にもなる。前向きに考え、これからの稽古に励んでいきたい。

◆水野琴実(2年2組)

コロナの影響がある中、いつも支えてくださる先生方、保護者の方に感謝の気持ちが伝わるよう全ての演奏演技を全力で取り組みます。

◆遠藤朱香(3年3組)

部活の大会などが中止になったけど、まだチャンスや可能性があるかもしれない!一生懸命練習したことは絶対に無駄ではない。

◆三高玲奈(1年2組)

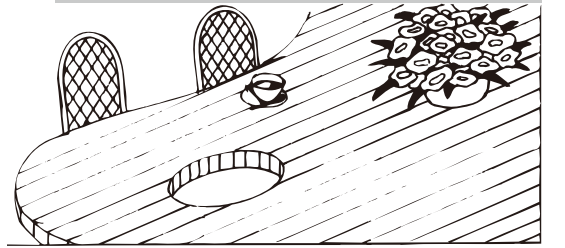
過去や未来でなく、今に集中して誰よりも努力し必ず来年インターハイ出場を決めます。中学の3年間応援ありがとうございました。

◆国分倫佳(2年2組)

目指す場所を失って、挫折そうになった時、支えてくれた人に感謝して前を向こう。

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



「捨てぬ人こそ…」



郡山女子大学附属高等学校
教諭 渡邊 泰夫

最近やフーニースで「断捨離率で福島県が第一位」という記事を見た。私はこれを見たとき、「やはり…」と思った。なぜなら、私自身もつい最近、生まれて初めて「断捨離」なるものを行ったからだ。今の福島状況を思えば、個々の理由は様々あるにしても、これをやることについて何となく理解できるのではないだろうか。さて、やってみての感想だが、30年ぶりに見つけたものなど、多くのものを思い切って捨ててみて、予想外に今は清々しい気持ちでいるのが不思議である。

「清貧」という言葉は、「いわば世捨て人の風雅の暮らしを論じたもので、一切を捨てたあと心の充実を説くもの」であるそう。どこにでもありそうな言葉だが、意外にもこのような考えを持つのは日本人だけだそうである。西洋的な考えでは「お金やものがなくて何の幸福か」というわけだ。その割には現在全米で「こんまり」ブームが起きており、リサイクル



ハワイアオブ島にて

ルショップはもので溢れているとか…。家族のもので勝手に捨ててしまい、離婚騒動にまで発展した例もあると聞く。このブームを巻き起こした「こんまり」は、ご存知の如く日本人である。

西行の歌に「身を捨つる 人はまことに捨つるかは 捨てぬ人こそ捨つるなりけれ」という句がある。まことに考えさせられる句である。

「福島に海にふれて」



短大・健康栄養学科1年
影山 明日香

9月26日と27日に、福島に海について考える、日本財団主催の「海と日本プロジェクトinふくしま 潮目冒険トレインツアー」に友人と一緒にスタッフとして参加しました。相馬市の郷土料理であるホッキ飯作りや磯遊びの他、漁師のみなさんから東日本大震災時の経験や東京電力第一原子力発電所の事故による風評被害の現状などをうかがいました。福島県で生活していながらも知らないことが多く、大変考えさせられるものでした。福島に海の豊かな

資源を未来につなげていかなければと思いました。

一番印象に残っているのは、参加した子どもたちの笑顔です。「はじめまして」の子どもたちも2日間一緒に活動することで「仲間」となり、短い時間の中で関係を築いていく様子を近くで見ることができました。また、このようなイベントが子どもたちのコミュニケーション能力や感受性を高めていく刺激にもなっていると感じました。

イベントの間、私は参加した全員が楽しめるよう次はどうサポートすればいいかを常に考えながら行動することを心がけました。時には子どもたちにとそと寄り添い、見守ることも必要だと感じました。今回の経験を通して、自ら考え行動に移すことの難しさ



「商品開発への想い」 〜地域を笑顔に〜



附属高校3年食物科
伊藤 真凜

私は、高校3年間を通して、地域の特産品を利用した商品開発に取り組んできました。新しい商品を考えるのは、創造する楽しさがある反面、苦勞もたくさんあります。食材の特徴をよく理解して、よりよい使い方をしなければなりません。食材の扱い方など、食物科で学んできたことをここで活かすことができました。さらに、商品開発の目的は、地域の人に喜んでほしい、地域の活性化につなげることにあります。小さな子どもから

大人まで、誰にでも好まれる商品でなければなりません。

商品開発では、地域の方々とつながりが私たちの開発の支えとなっています。今回、鏡石町の方々と一緒に開発し、商品化が目前となっているきゅうりのリゾットは、鏡石産のきゅうりを実際に収穫し、生産者の方に直接話を聞くことで、生産者の思いを感じることができました。また、加工業者の方には、私たちの試作をもとにレトルト食品に加工する提案をいただき、利用価値を高めることができました。私たちの力だけではできないことを、地域の方々の支援で少しずつ実現に近づけています。私たちの活動にいつも優しく笑顔で応援してください。地域の方々に深く感謝したいと思います。

私は将来、食にかかわる仕事したいと考えています。高校時代に経験できたことを活かして、多くの人を笑顔にできるよう、これからも勉学に励み、地域の方々と笑顔でつながっていききたいと思っています。



私の本棚

『科学雑誌 ニュートン』

(株式会社コトンプレス)

郡山女子大学短期大学部

教授 坂上 茂

普段の研究活動では、学術雑誌に掲載された学術論文を読む機会が多くなります。専門分野から離れた学問領域については、新聞などで扱われない内容を雑誌や書籍など

私が臨床心理学を始めるよりもっと昔は「脳のことはわからない」時代だった。脳は未知なる宇宙で、誰も知らない聖域だった。なのに「脳のしわが多いほど頭がいい」とか「人は脳の5%しか活用していない」という伝説もあった。今思えば「脳のことはわからない」のに、何故そう言えるんだ？おかしいじゃないかという話だった。

今の脳神経学はスゴイらしい。脳科学の論文は世界で1日100本出るという噂もあったりして、とにかく研究のスピードがハンパじゃない。

最初に解明されたのは海馬だったと思う。脳内ではタツノオトシゴによく似た海馬が記憶を支配し、海馬の先端にある扁桃体(アーモンド)が感情を司る。海馬と

生活診断室 シリーズ 66

トラウマ研究と脳神経学

郡山女子大学 人間生活学科

准教授 堀 琴美

扁桃体がくっついているから、強い感情を伴う記憶は長く残るし、感情のない記憶例えば授業の内容などはすぐに忘れてしまうのだ。

この「なかなか消えない、怖かった記憶」のことをトラウマという。動物が危険を記憶することは生存のためには重要だが、ヒトには長く残る苦痛でもある。この苦痛を取り除くために、百何十年前にフロイトとジャネがシノギを削り、以後、人類はこの問題と格闘してきた。最初は催眠やカタリシス、現代ならPEやEMDRやポリヴェーガル理論など、すごい理論や治療法がたくさん出てきた。でも結局、人の心を癒すのは、人間のつながりと優しさなんだなあと、やけに簡単な話に戻ってしまうのである。

から得ることができます。ニュートンは、数学や物理学、化学、生物学から宇宙や環境、人体などの幅広い自然科学分野の記事を一般読者向けにわかりやすいイラストと表現で掲載する月間雑誌です。月毎の特集記事(ベイズ統計超入門、まるごと中高理科など)と時々の話題(ノーベル賞の研究成果など)が掲載されます。特に、美しくわかりやすいイラストは印象的です。どれも漫画よりも正確で、写真よりも芸術的なイラストで難解な特集内容を正しく理解するために役立ちます。

印刷がきれいなためか、価格もそれなりにです。電子版はやや安く、また特集の記事だけを購入することもできます。特集記事をより詳しく取り上げた別冊(「最新ES細胞iPS細胞」、「ゼロからわかる統計と確率」など)も出版され、さらにきれいな印刷でイラストを楽しみながら読むことができます。他の科学雑誌では、日経サイエンス(Scientific American 日本語版)や日経ナショナルジオグラフィック社のナショナル・ジオグラフィック日本語版などが販売されています。これらの外国雑誌の翻訳版では、環境問題など世界の視点を知ることができます。

NEWS
学園ニュース

第42回北日本・第73回東北
学生陸上競技選手権大会

10月17日～19日、北上総合運動公園陸上競技場にて開催。

大学・食物栄養学科1年野木玲奈選手が出場した。

▽女子1000メートル 6位 12秒52

▽女子2000メートル 8位 26秒01

▽対校得点 20位

陸上競技部

県駅伝大会 7位

第38回県高校駅伝大会が10月22日、猪苗代町総合体育館前をスタート・フィニッシュの5区間、21・097キロで行われた。女子は30校24チームが参加。附属高校陸上競技部は1時間20分13、昨年度より7分タイムを短縮、順位も4つ上げて7位。来年こそは東北大会へ。

1区(6キロ) 伊東舞莉彩(高1年)

2区(40975キロ) 橋本暖重(高2年)

3区(3キロ) 佐々木さら(高2年)

4区(3キロ) 鎌田真央(高1年)

5区(5キロ) 薄ひなの(高1年)



力走した駅伝メンバー

第60回福島県

高等学校新人陸上競技

▽女子4000メートル 5位 三高玲奈

▽女子8000メートル

2位 佐々木さら・3位 橋本暖重

▽女子3000メートル 8位 伊東舞莉彩

▽女子1000メートル障害 7位 高橋優佳

▽女子4000メートルリレー 6位

▽女子1600メートルリレー 3位

▽円盤投げ 7位 国分倫佳

▽総合 8位 ▽トラック 5位

第25回東北高等学校

新人陸上競技選手権大会

10月2日～4日 北上市

▽女子8000メートル決勝 3位

橋本暖重 2分16秒05

第31回県南ジュニアダブルス

テニス選手権大会兼

新人戦県南地区大会

11月7日・8日、鳥見山庭球場にて開催。

▽個人戦ダブルス

第2位 橋本和恵(高2年)・今泉璃乃(高2年)(ジュニアダブルスでは3位)

第3位 樽川真奈(高2年)・安藤里紗(高1年)

*県大会出場 齊藤理奈(高2年)

・渡部朱里(高2年)

スポーツライミング

ジャパンカップ出場

ジャパンカップ出場権を賭けたスポーツライミングジャパンツアー「Fish & Bird」において、滝口萌さん(高2年)がボルダリング部門で総合2位の成績を収め、ジャパンカップへの出場権を獲得した。またスビード部門でもジャパンカップへの出場権を獲得し、1月中旬に行われるジャパンカップに臨む。

第5回県まのこ料理コンクール

最優秀賞

飯村菜月(大・人間生活学科3年)

「きのこ真薯 ふくしま魂」網焼き秋の香り添え」



受賞を喜ぶ飯村さん

飯村さんは来年3月に東京都で開催される全国大会に出場。これが3回目の出場となる。

▽優秀賞 伊藤真凜(高3年)

「きのこの宝石箱」

▽奨励賞 安齋郁美(高3年)

「きのこ三昧大葉餃子」

相良亜美・短・健康1年

「なんちゃって！会津城下町のソースカッ丼」

生ごみ減量減るしいレシピコンクール

▽最優秀賞 上野桃香・室井阜月

(短・健康2年)

「パリパリカリカリ！ディップカボチャ・濃厚パンプキンシチュー」わたこッキを添えて」

▽優秀賞 長原美奈(高2年)

大関花林(高2年)

▽佳作 田村美羽(高2年)／渡辺乃映(高3年)／大森唯寧(高3年)／鈴木颯菜(高2年)／山内芽美(高2年)

男女共同参画川柳コンクール

佐藤のあさんが入賞

郡山市男女共同参画センターが主催する「男女共同参画川柳コンクール」が行われた。

▽入賞 佐藤のあ(高2年)

「母帰宅もう出来てるよ父の声」

*一次審査を通過した石川理菜子さん(美術科2年)と薄羽衣音さん(美術科2年)の作品も、郡山市役所郡山市民プラザに展示された。

赤い羽根共同募金

大学・短大の学友会と附属高校

生徒会は学内で赤い羽根共同募金の活動を行い、150,885円を集めた。10月から大学、短大、附属高校、附属幼稚園の学生、生徒、教職員に協力を呼びかけた。

11月10日(火)に小林玲菜高校生徒会長、白岩千尋短大友会会長、吉田桃香大学学友会総務部長が共同募金窓口の郡山市社会福祉協議会の加納清史常勤副会長へ浄財を手渡した。



募金を贈った学生・生徒代表

家庭寮でランチいも煮会

家庭寮年間行事のひとつである寮友会主催のいも煮会を、今年は「ランチいも煮会」として、家庭寮食堂で10月18日(日)行った。



ランチいも煮会を楽しんだ皆さん

例年は、石筴ふれあい牧場でバター作りを行ったり、参加者全員で調理を行ったりしても煮会を行っていたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、調理師が作った特別献立を慣れ親しんだ家庭寮食堂で楽しんだ。食堂の収容人数の関係で、ランチいも煮会は2部に分けて行い、

会話がなくて静かないも煮会となったが、いつもと違ういも煮会でも、食欲の秋を満喫したようだ。

短期大学制度創設70周年記念
短期大学教育功労者表彰

短期大学制度創設70周年を記念した短期大学教育功労者表彰があり、本学から、齋藤美保子短大副学長・地域創成学科教授、會田久仁子健康栄養学科教授の2人が表彰され、12月3日(木)の短大教授会の席上、関口修学長から手渡された。



短大教育功労表彰を受けた齋藤先生(左)と會田先生(右)

早川仁准教授が都知事賞

美術公募展の第46回現代児童画展で短大・幼児教育学科早川仁准教



東前 智恵 さん
平成16年度 短期大学部専攻科卒

先輩を訪ねて

東前智恵さんは、二本松市市民交流センターという複合施設に勤務し、館内にある大山忠作美術館の学芸員もしながら、館内全体の管理・運営を行っています。当初は司書を目指していたのが、短大・専攻科在学中に学芸員の資格も取得していたそうで、「元々好きだった日本画を展示している美術館」といふところ、実際に行ってみて「紫

授が東京都知事賞を受賞した。作品は11月10日から15日まで東京都美術館に展示された。



都知事賞を受賞した作品「おさぼ日和」

福島県私立中学高等学校協会

▽永年勤続25年表彰

藤田 健 教諭(地歴公民)

人事

【新採用】(10月1日付)

柳原 仁 ひとし

所属 家庭寮調理師

附属高校事務局・大学事務局
年末・年始休業のお知らせ

*令和2年12月26日(土)～令和3年1月5日(火)まで休業となります。

1月6日(水)8:30より業務を再開いたします。

香」という作品に一目惚れをし、ここで働きたいと心が決まりました」。

学芸員としては、作品の展示や調査、管理、企画展の企画・実施、受付業務に広報活動、その他に、館全体の管理、運営業務と多岐にわたります。その中で、縁を大切にすることを一番に心がけ、幅広い世代の方が交流し、楽しみなが興味関心を広げられるような機会を提供できたら」と、仕事を通じて学びながら、ご自身も楽しみなが取り組んでいるという東前さん。

「二本松市大山忠作美術館は開館して11年目になりました。県内で唯一の日本画作品の美術館であり、大山忠作の繊細かつ力強い美しさのある作品を、後輩の皆さんにもぜひご覧いただけたらうれしいですね」。

「冊子」郡山女子大学の 「ブロンズ像」発刊

本学にあるブロンズ像を紹介する冊子「郡山女子大学のブロンズ像」が作られ、大学生、高校生、幼稚園児、教職員らに配布された。

関口富左名学長が学生に瑞々しい感性を磨いてほしいと願い、構内の各所に設置した10体を作者のプロフイ



郡山女子大学の
ブロンズ像

ールとともに掲載した。戦後の日本を代表する彫刻家・佐藤忠良の「母の顔」をはじめ、その師・北村西望が長崎の平和祈念像と同時期に作成した

「附属高校生しめ縄作り」

附属高校食物科の3年生は11月11日(水)、しめ縄作りを行った。

就労体験とともに、食と地域の伝統を融合した文化に触れようと取り組んだ。10月に生徒たちが収穫した稲の藁を使い、郡山市田村町守山に伝わる「守山しめ」の継承者・熊田三夫さん・マツさん夫妻の指導を受けた。

藁を丁寧に束ねたしめ縄と、縄をもじり円形にしたリースを製作。しめ



熊田さんの指導で作業に当たる生徒ら

「学友会主催でマスク作り教室」

学友会は、コロナ禍の中での学生支援を目的に「マスク作り教室」を開催した。6月から10月にかけて計6回の教室に、延べ約100名の学生が参加した。学生たちは毎回、10種類以上の布の中から、思い思いの柄を選び、自分や家族らが使用するマスク作りを楽しんだ。材料の調達では学園の同窓生の



気に入った柄のマスクを作る学生たち

協力もあり、先輩方の温かさも感じることができた。

「附属高校生稲刈り体験」

附属高校食物科の生徒117人と附属幼稚園の年長児50人は10月7日(水)、郡山市三穂田町で稲刈り体験を行った。

JA福島さくらとの共同事業で、米作りを通して日本の米食の大切さを再認識するのが目的。約25アールの田で実った「あさか舞」のコシヒカリを、鎌を使って手刈りした。束ねた稲を乾燥させる懸掛けの作業も行った。

例年なら5月に田植えも体験するが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止された。初めて稲刈りをした1年生をはじめ、数少ない野外活動の場



稲を刈り取って束ねる生徒ら

になった2、3年生は仲間との思い出づくりを楽しんだ。

「JA施設に巨大壁画登場！」

本学と包括連携協定を締結しているJA福島さくらとのコラボとして、郡山市日和田にある穀物貯蔵施設カントリーエレベーターに絵画制作をしました。学内で描いた下絵を元にして連日30℃を超える猛暑の中、現地の外壁シャッター(幅約6m、高さ約5mの2面)に、2週間に渡っての作業は大変でしたが11名の学生にとっては地域貢



巨大壁画を制作した学生たち

献としての意義を体得できる貴重な機会となりました。(壁画制作責任者・地域創成学科 浅野章)

紙上美術展 93

第15回西会津国際芸術村公募展2020入賞作品です。今年度は、コロナウィルスの影響により、各種公募展が中止になりました。そんな中、生徒は長期休業中の課題として作品制作を行い、出品いたしました。授業やさまざまな講座を通して学んだ成果を発揮して、今年度においても輝かしい成果を残すことができました。

西会津町長賞

美術科2年 橋本 唯花



佳作

美術科2年 佐藤 千愛



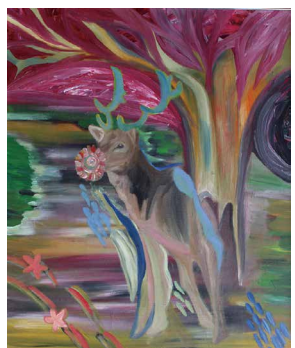
福島民友新聞社賞

美術科3年 菅野 未空



佳作

美術科2年 佐藤 樹音



木もれ陽

「教育と研究、そして成長」

T藝術大学の非常勤講師を終え、生まれて初めて東北の地に降りた。た日から30年近くが経つ。近況はよくわからないが当時のT藝大、特に絵画などのファインアート系はことのほか実力主義社会であり最終的に素晴らしい作品さえ創れば良しとする風潮があった。学生に対しても、ほぼ放任主義で授業の出席確認は甘く、師事する先生の背中を見て自分で学べという伝統もあつてか直接指導されたという記憶も少ない。そして赴任した郡山女子大学。ここでは毎日出席をとり、授業の進度や学生の成長をいつも気にかけ、生活面を含めた

諸々の相談にも乗る。大学生にもなつて過保護なのではと赴任当初は驚きと戸惑いの連続であった。が、しかし月日が経つにつれ「教育」とは何かということを強く意識するようになった。学生は先生に声をかけられ指導してほしい、先生もまた可能性の塊である学生を育てたいのである。悪戦苦闘の末ついに絵が完成した瞬間や、不安のなか出品したコンクールで入選や受賞を果たしたときの学生の喜ぶ顔はなにもにも代えがたい。教育と研究の両輪は大学の基本である。学生の作品の進み具合を気にかけながらも私は次回の個展に向けて今日も絵筆をにぎる。

(浅)



第15回

郡山女子大学 大学図書館

新しい本が届きました。



子どもの心の育てかた
佐々木正美著
河出書房新社
請求記号 379.9 II Sa



きのこの生理活性と機能性の研究
河岸洋和監修、シーエムシー出版
請求記号 474.85 II Ka



モロッコを知るための65章
私市正年、佐藤健太郎編著、明石書店
請求記号 302.434 II Ki



ストーカーの心理：治療と問題の解決に向けて
P.E.ミューレン、M.パテ、R.パーセル共著；安岡真訳、サイエンス社
請求記号 368.64 II Mi